

寺だより

ごくらく通信

令和4年1月1日
第21号

発行所
千葉県安房郡鋸南町
竜島7番地
極楽寺
0470-55-0733
<http://gokurakuji.online>

弘法大師のご宝号

—南無大師遍照金剛—

—浄土宗や浄土真宗では「南無阿弥陀仏」（なむあみだぶつ）、日蓮宗では「南無妙法蓮華経」（なむみやうほうれんげきやう）とお唱えしますが、真言宗では何とお唱えすれば良いでしょうか—

先日、ある檀家の方からいただいたご質問です。

南無阿弥陀仏（お念仏）や、南無妙法蓮華経（お題目）も、それぞれの宗派において、お唱えするだけで功德があり、生きていくうちにも「安心」（あんじん）を得られ、死後にも救いをもたらす言葉として信仰されます。

真言宗では、仏さまの真実の言葉「ご真言」を第一にします。ご本尊さまのご真言、（例えば不動明王のご真言）のうまくさまんだばざらだんせんだまかろしやだ

そはたやうんたらたかんまん）や光明真言（おんあぼきやべいろしやのうまかぼだらまにはんどまじんばらはらりたやうん）などをお唱えするのが良いでしょうか、慣れていない方は、少し難しく感じられるかもしれません。そこで、真言宗で最もお唱えしやすいものをあげるならば、それは私たちが「お大師さま」と仰ぐ、弘法大師空海（くうかい）のご宝号「南無大師遍照金剛」（なむだいしへんじようこんごう）」だと思えます。

平安時代に真言宗を開かれた空海は、若き日に中国に渡り、当時の最新の仏教である「密教」を学び、日本に伝えました。空海が中国で密教を学び得た際に、師から授かった名前が「遍照金剛」です。「遍照」とは、あらゆる仏さまの根本仏である大日如来という仏さまの別名であり、大日如来の特性を表し、大日如来が放つ光明が、内側も外側も、昼も夜も区別することなく、あらゆる場所に行き渡って暗闇を除くことを意味します。「金剛」は決して壊れたり砕かれたりすることのない強固なものを意味し、転じて最高かつ神聖な存在を表す言葉です。

四国八十八ヶ所霊場では、真言宗という枠を超えて、お大師さまはいつも身近にいて、私たちを見守り、ときには不思議な力を与えてくださる仏さまのような存在として信仰されます。「南無大師遍照金剛」。今年も皆さまに、お大師さまのご加護がありますように。

参道と境内の整備

弘法大師ご生誕1250年記念事業として進めてきました境内整備事業。

昨年までに1本目の柱である墓地の整備（無縁墓地の合葬）が終わり、そして2本目の柱である参道の新設と境内の景観整備が完了しました。

参道は御影石の大きな石板に、筋目を彫ったデザイン性のあるものを使用し、バランスを考えながら組み合わせられました。本堂前には手水石が置かれ、やわらかく、穏やかな景観になりました。

山門から入って右手には、御影の巨石が立ち並びました。この石にはどんな意味があるのでしょうか。

作庭されたガーデナーの木村博明氏は、山門から本堂までの参道を、迷いや苦しみのあるこの世から、だんだんと安らかな仏様の世界へ続く道として

イメージされ、本堂前の穏やかな雰囲気とは対照的に、入口に巨石を置くことによって、あえてけわしい雰囲気にしたそうです。

とはいえ、絵画や音楽と同じように、お庭も見入る人それぞれによって自由に感じて、世界を想像するものです。

私はこの巨石を、参拝者をお迎えす



る菩薩さまのように感じています。

仏教には山川草木 悉有仏性（さんせんそうもく しつうぶっしょう）という教えがあります。人の心の中だけでなく、植物や鉱石、海や山、空や大地といったあらゆる自然の中に、仏さまの性質は宿っているとの意味です。

参道の巨石も、単なる自然石ですが、わたしたちをお迎えくださり、静かに佇む菩薩さまのように感じると、仏さまや菩薩さまがいつも側にいてくださっているようで、なんだかとても有り難く思えます。

ちなみに、わたしは境内の大きなマキの木に、極楽浄土にある宝塔のイメージを重ねています。

極楽寺という名前のとおり、境内そのものを極楽浄土に感じていただき、普段の生活での悩みや迷いを離れ、ご先祖さまや大切な方と語る場所としてこれからもお参りいただければ何よりです。

本堂前に建てられたあずま屋に座って、少しの間、空や本堂を眺めるのも心が安らぎます。



本堂前のあずま屋 少し座って深呼吸してください

本堂は昭和4年3月に落慶し、今年で93歳です。屋根も瓦から銅板へと葺き替えられ40年が経ち、ご先祖さまの思いを受け継ぎながら現在まで守られてきました。

本堂も境内も大切にお守りしていきたいと思えます。

水屋が新設されました

お墓の入り口に新たに水屋を設置しました。旧水屋も並行してお使いいただけますが、新設の水屋には電熱式のお線香の着火器を設置しています。着火器は、火を使わない電熱式なのでとても便利です。



新設の水屋 中央の箱にお線香着火器が入ってます

着火器はお線香ボックスの中にあります。使い方は簡単です。

赤いスイッチボタンを押して、着火器の中央の凹みにお線香を差し入れるだけです。

(凹みの奥にある電熱線にお線香がしっかりと当たるようにお線香を置きます) 30秒ほど経つと煙が上がってきます。煙がモクモクしてきますが、あわてずそのまま、もう30秒ほど待つと、お線香全体に火がつかます。

着火器のスイッチは2分ほどで自動でオフになります。使い慣れると簡単なので、ぜひご利用ください。



お線香の付け方

- ①お線香を、着火器中央の凹みに差し入れます。
 - ②着火器の赤いボタンを押します。(緑のランプが点灯)
 - ③そのまま1分ほどお待ち下さい。お線香に着火します。
 - ④着火したら、お線香を忘れずにお取りください。
 - ⑤着火器は自動的にスイッチが切れます。
- お線香の点火が済みましたら、この扉をしめてください。

お線香

境内整備事業寄付ご報告

境内整備事業にあたり、これまで226名の方から、ご寄付をいただき、寄付金は1千130万7千円となりました。おかげさまで今日まで事業を進めることができました。自由寄付は8月31日で終了とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

安房国札 観音霊場ご開帳

昨年コロナ禍のため延期していた、安房国札の観音霊場が3月25日から4月25日の1カ月間、ご開帳になります。安房国札観音霊場巡礼は、鎌倉時代の貞永元年（1232年）に、疾病や飢餓の流行などに心をいためた安房国の僧侶たちが、地元の観音様を巡り、厨子の扉を開いて御詠歌を奉納し、疾病終息を祈願したことが始まりといわれていますから、昔も現在も、人々の

思いと仏様への祈りは変わりません。午年と丑年に開かれる6年に一度のご開帳。「家内安全」「疫病退散」など、諸願成就をお祈りされながら巡礼にお出かけください。

札所は1番から34番までありますが、順番どおり巡らなくても、どこから出発しても、どこで結願してもかまいません。春の房総を巡りながら、仏さまとの出会いを感じてください。

住職は兼務する鋸南町 上佐久間の往生寺（第10番札所）、南房総市の真野寺（第25番札所）のどちらかにいるかもしれません。

墓石の洗浄

極楽寺のお墓は明治や大正の頃に建てられたお墓も少なくありません。歴史があるお墓には、タワシでこすってもなかなか取れない苔もついています。現在は業務用の高圧洗浄機でキレイに取り除くことができますので、もし、お墓の苔や汚れが気になる場合は、お寺までご相談ください。



アフター

ビフォー